

研究課題名	胃腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後潰瘍における細径処置用内視鏡2本を用いた縫縮法の検討
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者(職名)	岡村 卓真 (医長)
研究期間	承認日 ~ 2026年12月31日
研究目的と意義	<p>早期胃がんに対しては内視鏡治療が一般的になっていますが、腫瘍を切り取った傷あと（潰瘍）から出血するなどの合併症が起こることがあります。それを防ぐために潰瘍を縫い縮める際に、通常より細い処置用内視鏡を2本用いる当院で開発した新しい内視鏡治療法（DuETsと呼んでいます）を用いることで、短時間で安全かつ確実に潰瘍を閉じられるかを検証します。本研究により、今後治療を受ける患者さんに対してより安全で効率のよい縫縮法を選択できるようになり、治療に伴う合併症や負担の軽減につながることを期待されます。</p>
研究内容	<p>●対象となる患者さん</p> <p>胃腫瘍の診断で当院にて2022年11月1日～2025年12月31日の間に内視鏡的粘膜下層剥離術を受けられた方のうち、2本の内視鏡での手縫い縫合あるいはクリップ縫縮、1本の内視鏡での手縫い縫合による潰瘍閉鎖のいずれかを受けた方。</p> <p>●利用する情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別、併存症、抗血栓薬の有無 ・血液検査：白血球、ヘモグロビン、CRP ・内視鏡所見：病変の局在、サイズ、肉眼型 ・治療：縫縮法、縫縮時間、使用した器具 ・術後経過：術後6日目の縫縮維持、後出血や遅発性穿孔の有無 ・病理結果：切除径、組織型、深達度 <p>●研究方法</p> <p>上記の情報をカルテより収集し、下記について検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・術後6日目に縫縮がどのくらい保たれているか ・縫縮にかかる時間 ・出血など合併症の有無 ・部位別の縫縮の保たれやすさ ・使用した器具の数
問い合わせ先	<p>所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター</p> <p>住所：長崎市新地町6番39号</p> <p>電話：095（822）3251 （内線3553）</p> <p>受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）</p>